

(別紙)

耐震計算の誤入力に係る再発防止対策の実施状況

平成28年1月
日本原燃株式会社

1. はじめに

平成19年8月21日、当社社長は、青森県知事に再処理施設における耐震計算の誤入力に係る報告を行い、平成19年8月31日、青森県知事から以下の4項目について要請を受けた。

- (1) 耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査の実施
- (2) 風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底
- (3) 耐震計算誤入力の件についての広聴広報活動の実施
- (4) 日本原子力技術協会による当社と協力会社との連携についての評価

これら4項目について、平成27年10月から平成27年12月までの実施状況を以下に報告する。

2. 実施状況

(1) 耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査の実施

計算機による設計解析を行う安全性評価業務が新たに発生した場合に、耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査を実施することとしているが、当該業務は発生していない。

(2) 風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底

風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底に関する諸活動をより実効性の高い取組みとするために設置した社長を議長とする「企業文化醸成委員会」を中心に、全社大の推進活動を展開した。

①企業文化醸成の活動実績

第20回企業文化醸成委員会（平成27年6月24日）での決定を受け、以下の重点項目を中心に企業倫理や職場風土を含め、幅広く企業文化の醸成に取り組んでいる。

- ・経営層と現場業務を行っている社員との対話活動の実施
- ・社員の価値観・心持ちに働きかける「本音で話す対話」活動の実施
- ・「私たちの行動基準ガイドライン」改訂に向けた取組
- ・コンプライアンスディスカッションの実施
- ・挨拶運動「ごきげんねん」の実施
- ・社内広報の発行
- ・アンケートによる企業文化に係る活動のモニタリング実施

社内の一体感の醸成及び社員のやる気を引き出し、ひいては自主性及び自律性を伸ばすため、社員の価値観・心持ちに働きかける施策として注力している「本音で話す対話」について、今年度は、各職場の部長が対話の重要性・必要性を理解し、職場で活用できるス

キルを持ち、「本音で話す対話」の推進者となってもらうべく取り組みを推進している。

②品質月間講演会の開催

平成27年11月10日に、人事コンサルタント 大竹哲郎氏を講師に『アドラー心理学で品質を考える～「勇気づけのコミュニケーション」について～』と題した品質月間講演会を開催した。責任や対人関係などの様々な心理状態が品質管理に影響を与えること、アドラー心理学の観点で考えた場合、負の心理を前向きに変換することが重要であることをご紹介いただいた。(参加者:約100名(協力会社社員含む))

③協力会社への個別訪問

協力会社との双方向コミュニケーション活動の一環として、平成27年度下期の個別訪問(34社)を平成27年11月4日から12月2日まで実施し、当社社員とのコミュニケーションに係る意見交換を行うとともに業務上の意見・要望を聴取した。

(3)耐震計算誤入力の件についての広聴広報活動の実施

耐震計算誤入力については、新聞広告や当社広報誌、地域会議などを通してお知らせしている。(平成19年10月29日に報告済)

今後も当社事業全般に関して様々な広聴活動を継続するとともに、頂いたご意見を踏まえて、わかりやすい広報活動に取り組んでいく。

(4)日本原子力技術協会による当社と協力会社との連携についての評価

平成19年12月27日に日本原子力技術協会より受領した「協力会社との連携に関する特定評価」における改善要望に対する当社の取組み状況の確認結果について、平成21年2月3日に日本原子力技術協会より報告を受けた。(平成21年4月16日に報告済)

今後、改善要望に対する取組み状況について然るべき時期に改めて確認を受けることとなっている次の項目については、以下のとおり逐次対応している。

- ①「協力会社に発注した業務の管理」
- ②「協力会社とのコミュニケーション改善」
- ③「言い出せる文化・職場風土の醸成」
- ④「コンプライアンス(企業倫理遵守)の取組み」

上記の①の項目については、「業務に精通した主管部署や品質保証

部の監査への積極的な参加」や「工事を伴わない解析業務の一貫した管理のルール化」等、確実な設計管理を行うための仕組みを構築し、運用している。

上記の②、③、④の項目については、前述の「(2) 風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底」において取り組んでいる。

以 上